

7 月

国家試験対策ニュースレター

受験応援号

発行：日本福祉大学社会福祉学部

夏に差がつく。秋に花が咲く。

目次

激励メッセージ	1
先輩たちの合格体験記	2
国家試験ワンポイントアドバイス	3

(編集担当：両角達平)

激励メッセージ

2026 年度の社会福祉士国家試験は新カリキュラム 3 年目。試験範囲の変化に備える「準備力」が今まで以上に問われます。ここで踏ん張る人が勝つ！

予備校講師・渡辺勝彦先生の言葉を胸に刻んでください：

「戦って負けたのならそれは結構。でも逃げて負けたら明日はない」

苦手分野にも逃げずに挑み、ミスを成長の糧にしましょう。

モチベーション維持には「具体的なイメージ」が有効です。ある講師は、「合格した自分の姿をできる限り細かくイメージせよ」と教えたそうです。試験後、自分がどんな環境で活躍し、誰を支えているか——その光景を頭に描き続けてください。

夏休みは、学習の山場であると同時に、気持ちが揺らぎやすい時期でもあります。だからこそ、「朝のルーティン」や「勉強した分を記録する仕組み」を取り入れ、自分自身を少しでも前向きに保てる工夫をしてみましょう。モチベーションは常に高くなくていい。低いときでも「続ける仕組み」を持っている人が、最後に笑います。

合格に向かうこの夏、一緒に乗り越えていきましょう。

両角 達平



先輩たちの合格体験記

2026 年 3 月卒業 子ども専修 吉田天音
(社会福祉士・保育士)

社会福祉士国家試験の勉強をしていると、不安になったり、思うように勉強が進まなかったりすることがあると思います。私も実習や卒業論文、就職活動と並行しながら勉強を進めていたため、焦りや不安を感じることが何度もありました。ここでは、そんな私が実際に行っていた勉強方法についてお話ししたいと思います。

私は、**社会福祉士と保育士のダブル資格取得**を目標に、4 年生の 4 月から勉強を始めました。しかし、6 月には施設実習、8 月には児童館実習があり、その合間には卒業論文も進めなければならなかったため、社会福祉士の勉強だけに集中できる状態ではありませんでした。6 月の施設実習では、実習で学んだことと授業で学んだことが結びついた瞬間が何度もありました。授業で学んだ制度や支援の考え方が、実際の現場ではどのように行なわれているのかを見ることができ、「こういうことだったのか」と理解が深まったことを覚えています。**実習中に経験したことを社会福祉士の勉強内容と結びつけながら考えることで、知識がより定着していったように感じます。**ただ暗記をするよりも、実際に体験したことで学んだ知識を結びつけながら勉強していくことが大切だと感じました。

8 月は児童館実習と卒業論文が重なり、思うように勉強時間を確保することができませんでした。周りの友だちが勉強を進めている中で、自分は勉強時間を十分に取ることができず焦りを感じていました。しかし、無理に勉強時間を増やそうとするのではなく、実習や卒業論文に集中しながら空いた時間に赤丸福祉の一問一答をするなど、自分にできる範囲で勉強を続けていました。9 月以降は卒業論文と並行しながら本格的に勉強に力を入れていきました。

勉強をしていく上で大切にしていたことは「**友だちに説明できるまで理解すること**」です。大学へ行ったときは友だちとお互いに学んだことを教え合っていました。説明していると「それってどういうこと?」「なんでそうなるの?」と聞かれることがあります。そのときに答えることができなかった内容は、自分でもまだ理解できていない部分だと思い、家に帰ってからもう一度調べ直し、次に会ったときには説明できるようにしていました。また、友だちに教えるだけでなく、友だちから教えてもらうことで自分では気付くことができなかった視点や考え方を知ることができることも多かったです。一人で勉強することも大切だと思いますが、私にとっては**友だちと教え合いながら勉強すること**が理解を深めることに繋がったと思います。

私は模試では一度も合格圏内に入ることができませんでした。それでも最後まで諦めず、自分なりの勉強方法を続けたことで合格することができました。勉強をしていると不安になったり、思うように点数が伸びず落ち込んだりすることもあると思います。私自身も何度も不安になりました。そんな時は、一人で抱え込まず先生や友だちに相談してみてください。実習や卒業論文、就職活動など大変なことも多いと思いますが、諦めず自分を信じて最後まで頑張ってください。

皆さんの合格を心より願っています。

国家試験ワンポイントアドバイス

「社会学と社会システム」のここが出る！

末盛 慶



とあるところのとある風景・・・

A「先生、社士の勉強がなかなか進みません！」

B「大変だよね。就活や卒論もあるし…。けど社士は4年間の学びの集大成。社会福祉について学んでいること自体が素晴らしく、社会の幸せにつながるんだよね。」

A「「社会学と社会システム」、カタカナが多すぎて正直よくわかりません！」

B「確かに。ゲマインシャフト、ジェンダー、デュルケムとカタカナ多いよね。」

A「先生、試験に出るところを教えてください！」

B「それな。頻出分野をおさえることが社士対策では何より大切なんだ。「社会学と社会システム」の頻出分野をさらっとおさえていこう！」

社会学と社会システムは学習範囲がやや広めの科目になりますが、実際出題される分野は

絞れる面があります。大きく以下の7つの分野がよく出題されます。①社会集団（ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、官僚制など）、②地域（コミュニティ、アーバニズム、ソーシャルキャピタル、限界集落等）、③家族・世帯の定義と動向（直系家族、夫婦家族、単独世帯等）④行為・役割（ヴェーバー、パーソンズ、ハバーマスらの行為論、ゴフマンらの役割論）、⑤社会問題（貧困、ジェンダー、労働問題等）、⑥社会変動（マルクス、ヴェーバー、ギデنزらの社会変動論）、⑦社会的ジレンマ（共有地の悲劇等）。上記の分野やキーワードに関する過去問を解いたりテキストを読んでいくと良いです。

社会福祉特別講座Ⅲでみなさんとお会いできることを楽しみにしています。勉強の仕方などわからないことがあったら気軽にお声がけください！



「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」

保正友子

新カリ以降、「ソーシャルワークの基盤と専門職」は午前 6 問、「ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)」は午後 6 問の計 12 問の出題となりました。以前は、「点数が取れる科目」という位置づけでしたが、今回はテキスト学習の範囲を超えた問題が出されていますので、戸惑った人も多かったかと思います。以下、2025 年度の問題傾向に基づきどのような対策が必要かをみていきます。

今回、問題として出されたポイントは 4 点です。そのため、各項目を押さえる必要があります。なお、下記以外で「ソーシャルワークの基盤と専門職」には、ソーシャルワークの歴史・展開があるため、それにも答えられるようにしておきましょう。

- 1) ソーシャルワークの概念・定義(人権・多様性・社会正義の深い理解)→問 69
- 2) 社会福祉士の専門性・職業倫理、職域・役割→問 64、問 65、問 68
- 3) 人名と理論→問 66、問 67、問 109、問 114
- 4) ミクロ・メゾ・マクロレベルの支援のポイント→問 110、問 111、問 112、問 113

今回の問題で「難しい」と感じたのは、おそらく以下の 2 点ではないでしょうか。それ以外はテキスト学習で対応可能です。

①問 67「多文化ソーシャルワーク(Multicultural Social Work)について記したスー(Sue,D.W.)による言説として、最も適切なものを 1 つ選びなさい。」

スーはあまり馴染みのない人名で、テキストに載っていない可能性が高いですが、内容の範囲は現在ホットな多文化ソーシャルワークに関するものなので、科目範囲を大きく超えることはありません。今回のように、近頃のトレンドが出題される可能性がありますので、同じく多文化ソーシャルワークを学ぶとともに、AOP (Anti-Oppressive Practice : 反抑圧的实践)、エコ・ソーシャル・アプローチ (Eco-social Approach)、デジタルツールの活用(デジタル・デバイドへの支援)等も押さえておくとうまいかと思います。

②『『性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律』で事業者への努力義務に定められているものとして、適切なものを 2 つ選びなさい』。

これはソーシャルワーク支援そのものというより、支援で活用する知識の理解を促す問題です。この法律は 2023(令和 5)年に施行されていますので、おおむね過去 3 年程の間に施行・改訂されたソーシャルワーク支援で活用しがちな法律やガイドライン等を押さえておきましょう。過去 5 年に広げても良いかもしれません。具体的には、こども家庭ソーシャルワーカーの任用要件の新設、医療ソーシャルワーカー業務指針の全面改正、社会福祉士養成における ICT 活用、精神保健福祉士養成における精神保健福祉士の業務範囲への「精神保健に関する相談援助」追加等です。

まだ時間はありますので、ひとつひとつ押さえていってください。

「ソーシャルワークの理論と方法」

山口みほ

本科目は、午前の「共通科目」と午後の「専門科目」の2科目に分かれています。過去問の反復学習が非常に有効ですし、「現場感覚」が大事な科目ですので、本学の皆さんにとって得点しやすい科目と言えます。

合計で18問と、全科目の中で**最多の出題数**ですので、ここでしっかりと得点を稼いでおきましょう。

傾向としては、①事例問題 ②理論モデル・アプローチモデルに関するもの ③ソーシャルワークの展開過程に関するもの が多く出題されています。

①事例問題

事例問題を解く時には、問いと解答の選択肢に目を通してから事例の本文読むようにしましょう。解答の選択肢の正誤を判断する際は、「**バイステックの7原則**」や「**ソーシャルワーカーの倫理綱領**」に照らして、ソーシャルワーカーの態度やクライアントとの関係性を考えること、また、質問技法や会話の焦点化等の**基本的な面接技法**の使用の適切さをチェックすること等がポイントとなります。

②理論モデル、アプローチモデル

理論モデルは、「**医学モデル**」「**生活モデル**」「**ストレングスモデル**」等、援助の基本となる考え方を示したものです。支援者優位の考え方から、クライアントの意向を尊重する考え方に変化してきた歴史も押さえておきましょう。

また、ミクロ、メゾ、マクロの多様な対象を統合的にとらえる「**システム理論**」を基盤とした「**ジェネラリスト・ソーシャルワーク**」の考え方の理解も必要です。

アプローチモデルは、援助の「型」を指します。「**心理社会的アプローチ**」「**課題中心アプローチ**」「**危機介入アプローチ**」「**エンパワメントアプローチ**」「**ナラティブアプローチ**」等の主要モデルについて、提唱者の人名と、他のモデルと区別される**特色**を押さえておくようにしましょう。

③ソーシャルワークの展開過程

「**インテーク（受理）**」から「**ターミネーション（終結）**」、その後の「**フォローアップ**」に至る、一連の**ソーシャルワークの流れ**について、各段階ごとに整理しておきましょう。各段階の**カタカナ名称**もきちんと覚え、**時系列順**やそれぞれの段階で行われる内容を覚えておいてください。

この科目で学ぶ内容は、「試験のため」だけではなく、ソーシャルワーカーとして現場に立った時、「専門性」の「**よりどころ**」となるものです。「将来のために学ぶ」という意識で臨んでください。「**ステキなソーシャルワーカー**」を目指して頑張りましょう！

国家試験ワンポイントアドバイス
—「高齢者福祉」—



伊藤 美智予

社会福祉士国家試験における「高齢者福祉」の出題基準として、1) 高齢者の定義と特性、2) 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境、3) 高齢者福祉の歴史、4) 高齢者に対する法制度、5) 高齢者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、6) 高齢者と家族等に対する支援の実際の6つが挙げられています。

第38回試験の出題傾向は例年とやや異なりました。これまで頻出問題とされてきた「介護保険制度の仕組み」「高齢者福祉制度の歴史的展開」から出題されませんでした。基本的には出題基準にそって、頻出問題をしっかり勉強しておくことが大切です。以下、学習のポイントです。

みなさんのご検討をお祈りしています。がんばってくださいね！

1) 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢

「高齢社会白書」(内閣府)からよく出題されています。高齢者の身体的・社会的・経済的特徴、世帯や就労状況、介護需要、高齢者虐待などについて、最新の統計データを確認しましょう(インターネットで入手可能)。

2) 介護保険制度の概要

これまでの試験において、本科目の中でも出題問題数が最も多い分野です。介護保険制度の概要、介護保険法における国・都道府県・市町村の役割、要介護認定の仕組みやプロセス、介護保険サービスの種類などについて学習しましょう

3) 高齢者福祉制度の発展過程

範囲が広いため、まずは制度の発展過程の大きなトレンドから理解することをおすすめします。当時の社会的状況に関連づけると、制度の発展過程が理解しやすくなります。

4) 老人福祉法など関連法

老人福祉法、高齢者医療確保法、高齢者虐待防止法、バリアフリー法など高齢者と家族を支援する際に根拠となる関連法を確認しておきましょう。

5) 地域包括支援センターの役割と実際、地域支援事業

地域包括ケア、地域包括支援センター、地域支援事業など関連づけて学習しましょう。その他、高齢者と家族を支援する関連機関や専門職の役割、多職種連携についても確認しておきましょう。